

支所発地域力向上支援金事業実施報告書(自己評価)

令和7年1月30日



事業実施地区	篠ノ井地区
事業名	篠ノ井史跡・名所巡りパンフレット改訂事業
団体名及び 代表者名	(団体名) 篠ノ井歴史の会 (代表者名) 会長 宮入 正純 (連絡先) 連絡担当者 氷熊 光久 090-1767-7232

■事業概要(選考委員会の助言を含む)

<input type="checkbox"/> R3年度一冊にまとめたガイドブックを発刊した。この本は、現在小学校で有効活用され、副教材に使用されている。最新であるガイドブックと各地区のパンフレットと不整合が生じ学習用としても不都合が生じたため、3年かけて各地区のパンフレットを校正、改訂と印刷し提供する。 <input type="checkbox"/> 駅構内パンフレットなど正しい資料を提供し篠ノ井の文化財を継続的な情報を発信する。これらにより駅ラック等の展示が途切れることのないよう、補充できる。また、学校での探訪会などの取組みが多くなり、副教材として使用されるケースが増してくることの備えることができる。	【事業完了日】 令和6年1月30日 【総事業費】 180,000円 【補助金額】 150,000円
---	---

■事業効果(目的の達成度・地域への貢献度等について)

- ①パンフレット校正印刷(共和、川柳、東福寺、西寺尾、信里地区と大獅子)を各1,000部印刷し、本事業の成果物を用いて、小学校や中学校の現地案内に使用していく。また、今後訪れることが見込まれる芝沢区・内堀区の大獅子の歴史を記載したパンフを増版し、歴史探訪者や愛好者の増加に備えた。
- ②将来の篠ノ井や次世代を担う人材育成については、郷土の歴史を学ぶことや文化財との触れあいの機会が多くなれば故郷を愛することに繋がらないことを踏まえ、小学校や中学校の生徒の歴史探訪会開催や出前授業の拡大を今年後の重点推進テーマとして底辺拡大に努めたい。
- ③今年度の学校等の歴史探訪会については、具体的には、篠ノ井西小6年生全員による川柳將軍塚を勉強会で110名、今年初めての取り組みとして篠ノ井東中3年生の郷土の歴史を学ぶ会を2回開催し80名の参加、長野保健大学の信里歴史探訪会に90名、共和、信里、塩崎地区の20名規模の出前講座等の開催、開催後参加者に意見を聞くと文化財の直接触れてみてその成り立ちを理解したことが述べられている。篠ノ井地区の文化財の再発見や地域の愛着心を更に高められるよう次年度以降には高校にも広め、地域力の向上に努めたい。また地区や地域と協同して地味ではあるが、継続し積極的に展開し地域の核となる人材育成につなげていきたいと考えている。今年度の重点的に訪れる文化財を定めて事業を展開してきた。具体的には、「芝沢区の大獅子と山車の歴史」、「東福寺区の教育者大久保薫齋・敏齋と楽地苑」いずれも3回訪れたが、案内人の育成や内容にも大変効果の上がる勉強会となった。次年度も核となる文化財を定め歴史探訪会を拡大できるよう取り組んでいきたい。

※参加人数等、数値化して効果を表せるものがあれば数値化したものも加えて記載をお願いします。

■事業評価（該当欄に○）

	予定を上回る	予定どおり	概ね予定どおり	予定を下回る
事業の内容		○		
事業の効果			○	
特記事項 (評価理由等)	① 最新パンフレットで案内できた。 ② パンプの数量も心配なく配布可能となった。			

■今後の取組予定

- ① 弊会は篠ノ井の持つ貴重な歴史の名残を未来の街づくりに繋げていくためにこの町のポテンシャルの高い文化財や歴史、風土、を市民に伝える活動を真剣に考え活動している。20年にわたり、その地道な努力が認められ、今年度は、「長野県文化財保護功労賞」を受賞できた。これらを踏まえこれからの10年後の篠ノ井を創る人材育成を主眼とした取り組みを推進していく。
- ② パンプの積極的活用を目指し、再度方法を考慮し、小中学校の出前授業での郷土の歴史を学ぶ機会を働きかけていきたい。今年度は、「大久保薫齋、敏齋」、「芝沢区の大獅子、山車」に焦点を当てた歴史探訪会を行ってきたが、成果が徐々にみられたことから、テーマを絞った取り組みを行っていく。
- ③ パンフレットの内容についても時代の変化に応じ常に新鮮な情報に変えて行かなければならない。パンフを作成後経過の年数が多いものも存在し、常に問題がないかなどの再チェックは必要である関係区長や学識経験者などと意見交換し見直しや内容のリニューアル化や再精査の時期でもある。市誌編集事業と並行し、再々度の校正及び内容の見直しに着手していきたい。
- ④ 地元の歴史の学習や歴史保護的な日常の様々な活動は、個人の意識向上が原点である。そのために近い将来（3年後を想定して）の篠ノ井市誌編集事業へと繋げる史資料の収集を足がかりにして情報の新鮮化させる活動を深度化させていかなければならないと考えている。



小松原の赤地蔵

18 小松原の赤地蔵

小松原南組地区の南端に、小さな石に赤地蔵が安置されています。同敷地内周辺には二十三夜塔、庚申塔、礼所巡礼記念碑、徳本碑、馬頭観音像などが置かれています。集落の人びとは江戸時代から昭和初期まで、天災や社会不安がおきる度にこの場所に集まり、祈りを捧げ、家族や地域の安泰を祈願しました。また、この地は江戸時代西山地区の人びとが、松代への近道として利用した山布施往来という重要道路の一部となっていました。



蟻龍学校跡地

20 蟻龍学校跡地

明治7(1874)年、日新学校より分離独立し、小松原腰村地籍の地蔵堂を借用して蟻龍学校が設立されました。天に昇る竜がわたかまる所、英才を育てる学校が命名の由来です。明治15(1882)年、蟻龍学校は小松原学校と改称され、初等科、中等科、高等科の課程を実施することとなりました。

明治21(1888)年、岡田村と小松原村が合併、新しい共和小学校の設立に際し、蟻龍学校校舎は共和小学校の北校舎として移築されました。



腰村前方後円墳

21 腰村前方後円墳

長野市の史跡古墳。地形に応じて前方部を南、後円部を北方にし全長43m、前方部幅21m、後円部径24mの前方後円墳です。高さは後円部が4.5m、前方部が4mであり、前方部が後円部とほぼ同じ高さです。前方後円墳としては、比較的新しいものです。遺物は墳丘から6世紀前半ごろの特徴を持つ円筒埴輪や形象埴輪の破片が採取されています。善光寺平の前方後円墳の消滅期を示す貴重な古墳です。



共同防除発祥之地碑

22 共同防除発祥之地

昭和24(1949)年から25年にかけて病害虫が大発生し、りんごが大被害を受けました。急傾斜地で水がなく、薬剤散布の不徹底が原因でした。傾斜地25度余、15haの畑は1回の防除に10万リルの水が必要でした。昭和26(1951)年関係者42戸で防除組合を組織。最下部の湧水池から揚水し、上部の貯水槽に溜め、大型動力噴霧器で15haを1日で散布完了できるようになりました。全国初の共同防除で関係者の寄金で記念碑が建立されました。



天照寺

23 天照寺(曹洞宗)

曹洞宗日輪山天照寺といひ、本尊は宝冠釈迦如来。東御市興善寺の五世昌山清繁を御山として、川中島四ツ屋塚の「天照寺橋」ありと伝えられる地に永禄11(1568)年に開創され、5年後に現在地に移転再興されました。

珍しい石造りの山門の上には宝篋印塔が立っています。境内の観音堂には准胝観音像が祀られています。密教の女性尊で、七俱胝仏母・准胝仏母ともいわれ、ひじょうに貴重な観音像です。



天照寺羅漢堂

24 天照寺羅漢堂

旧羅漢堂は寛政年間(1789～1801)前期に完成したと想定され、石段右下に瓦葺きで建立されましたが、弘化4(1847)年の善光寺地震で倒壊、現在地に移築されました。

室内には五百羅漢の彩色壁画が配られています。奥の中央には羅漢車像が、その周囲を1枚の板に3人の羅漢像が描かれ、それが何十枚も周りを取り囲むように飾られています。それぞれ羅漢像は座り方・衣の着方・表情が異なり、色鮮やかに描かれ見応え充分です。



小松原地震断層

25 善光寺地震による小松原地震断層

弘化4(1847)年3月24日(旧暦)夜10時ごろ、長野盆地西縁部で大震災、善光寺地震が発生しました。地震規模はM7.4。この地震で県庁北近辺と篠ノ井小松原で明確な地震断層が現れました。この断層は山側が盛り上がり盆地側が下ががり、その落差は21～3mもありました。小松原島居北面では、県道の線を境にして西側で約16m地面が上昇、石垣を造って崩れを防止しました。現在残っている石垣が当時を物語っています。



小松原伊勢社

26 小松原伊勢社

正式社名は布施御厨皇大神宮(社)、創建不詳ですが、信濃国御厨9ヶ所の一つで、古くから伊勢神宮内宮の御料地であると伝えられ、近郷16ヶ村の崇敬が深い神社です。御料主務吏員の邸跡である字大夫殿屋敷、字神田などの地籍名も残されています。古記録には治承4(1180)年木曾義仲造営、その後布施氏再営とあります。大正15(1926)年の小松原大火で神楽などを焼失、昭和11(1936)年に神明造りの本殿をはじめ幣殿・拝殿・御神門などが再建されました。



犀口舟渡跡

27 犀口の渡し跡

この地は旧善光寺街道の舟渡場としてにぎわっていました。慶長16(1611)年北国街道整備と宿駅が設定され、犀川の渡し場が丹波島に移りました。安政2(1855)年の松代藩封内測量図によると、小松原の伊勢社裏から、犀口の渡しを渡り、吉澤城下方の舟渡場に渡っています。また、江戸時代の犀口から小市を見る図、小市から犀口を望む図、弘化の地震絵図など、「犀口の渡し」を描いた数点の絵図面が存在します。



東飯田酒造店松の間の絵巻

28 東飯田酒造店

江戸末期の慶応元(1865)年創業。敷地内に「酒蔵」「土蔵」「漬物蔵」「松の間の接客用建物」が残っています。この4棟の建物は平成24(2012)年に「登録有形文化財」に指定されました。松の間は瓦葺きの寄棟造で、屋根には飛龍・鯉・清獅子などが飾られ、玄関に丸みのあるひさしを認め、壁は松や鶴を浮き彫り風した幾何学で飾っています。室内は柱の間柱が大広間2畳・天井高12尺で書院造付きの本床仕上げがされています。



西飯田酒造店

29 西飯田酒造店

江戸時代末期の創業。県内唯一の花酵母仕込みの酒蔵を持っています。当蔵は長野県百年企業「信州の老舗」で表彰されています。酒蔵は二階建て木造校舎風の建物。二階は梁を活かし、酒造りの古道具具展示室に生まれ変わろうとしています。母屋と酒蔵の真ん中を犀川からの堰が流れています。母屋裏の自然の傾斜を利用した歴史ある庭園がみごとです。最近では信州産りんごの「シナノゴールド」のワイン造りを行い、地域の活性化に寄与しています。



下堰サイホン出口

30 下堰サイホン出口

昭和29(1954)年完成の東京電力小田切発電所のダム放水路から取水した水は、犀川左岸沿いの水路トンネルを流れ分水工で善光寺方面と、犀川の下を横断して川中島方面に分水、多くの農地を潤しています。この河川横断部分を「サイホン」といいます。

昭和30(1955)年造営の「サイホン」は、犀川の河床低下により川底に露れ、壊れる危険が生じたので、200m下流に新しい「サイホン」を設けました。この犀口の場所が下堰サイホン出口です。

篠ノ井地区歴史探訪シリーズ

共和地区史跡・名所巡り

篠ノ井の共和地区には、古代からさまざまな歴史が刻まれています。また、りんごの里としても知られ、秋の収穫期には大勢のりんご愛好家が訪れるなど、歴史と味覚にあふれた共和地区をご案内します。

ガイドマップ



注意：文化財などは、私有地にあるものもあります。見学の場合は関係者の了解を得てください。

篠ノ井歴史の会

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田1285 TEL 026-292-0038

協力団体：長野商工会議所篠ノ井支部／観照寺・玄峯院・共和国農業協同組合・光林寺・天照寺・東飯田酒造店・西飯田酒造店

川柳地区史跡・名所巡り



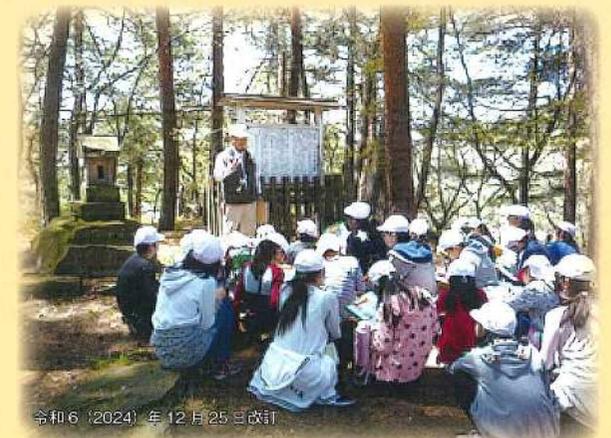
古くから開けた「古墳の里 川柳」

川柳地区はシナノのクニでは、最も早くから開けたところの一つです。西方、北方に山地があって、その山麓前方に千曲川氾濫原が広がっています。この地形から南側の湿地帯では弥生時代になると、聖川の水を利用してイネの栽培が行われており、当時の水田跡の発掘もされました。

古墳時代に入ると全長 93m に及ぶ長野県内最大級の川柳將軍塚古墳（国指定史跡）があり、鏡、勾玉、他、貴重な副葬品が多数出土しています。

川柳地区には川柳將軍塚古墳を筆頭に 28 基もの古墳が確認されており「古墳の里 川柳」といわれております。

川柳とは石川村と二ツ柳村が明治 33（1900）年に合併して、石川の川と二ツ柳の柳をとり「川柳」となりました。



令和 6（2024）年 12 月 25 日 改訂

注意：文化財などは、私有地にあるものもあります。見学の場合は関係者の了解を得てください。

篠ノ井歴史の会

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 1285 TEL 026-292-0038

協働団体：長野商工会議所篠ノ井支部

方田区

18 二ツ柳神社

祭神は建御名方命。度重なる戦火による災難に遭い上ノ宮地籍から現在地に再建されました。天正年間焼失、正徳 5（1715）年に再建され、現在の本殿は安永 8（1779）年に改築。松代群竜地震等で痛み、平成に大改修が行われました。祭事として方田、作見、中条、大当、昭和の神楽保存会が年番で神楽の奉納をしています。



二ツ柳神社社殿

20 鶺鴒石（二ツ柳神社内）

現在の JA グリーン長野川柳支所がある場所には、以前は川柳村役場がありました。この西側上方の南斜面が、下石川の小学鶺鴒石です。

鶺鴒に似た石があり、地名となったものと思われしますが、今は二ツ柳神社本殿の石垣の上段角に鎮座しています。



鶺鴒石

21 石造多層塔

二ツ柳神社の参道東側にあり、二重で基礎は一石で二段にし、上層の笠に下軸を挿し込んでいます。総高 127cm、基礎方は 84cm、同高さ 18cm。石は梅花凝灰岩です。もとは三重か五重のものと思われ。奈良時代に百濟の福化人建立とされる近江の石塔寺三重塔（重文）と形が似ており、異国の要素があります。造立年月は定かではありませんが、高句麗の皇族前部秋足が帰化し、平安時代に篠井という姓を朝廷から賜った記念に建てたとされています。



石造多層塔

中条区

22 中条の釈迦堂

江戸時代は住民の信仰の場としてお堂が各地にありました。明治維新後に出された神仏分離令などにより廃寺の対象となりますが、松代の長国寺の本寺となり、廃堂を免れました。住民は観音様を安置してお祭りや行事をし、お堂の名で親んできました。



中条の釈迦堂

大当区

23 大塔の古要害跡（伝）

応永 6（1399）年に信濃国の守護に命じられた小笠原長秀を地元の豪族らが追放しようとする一揆と称し戦いました。長秀は傷を負い塩俣城に逃げ延びましたが、家来の長国ら 300 騎は大塔の古要害にたてこもりました。長国らは兵糧攻めにあい、最後には全員が討ち死にしました。要害の場所は定かではなく、今の大当区とも二ツ柳城との説もあります。



釈迦堂跡に建てられた公民館棟の墓地に石塔などが祀られている

作見区

24 作見の「梅の観音」

源頼朝の愛人であったという、松代尼藏城主東条氏の娘お安御前が生進自分の守り本尊にしたという観音様。頼朝の死後に故郷の海岸の里に住み「梅の観音」と名づけて祀ったといわれています。今は作見区の公民館の中に安置され、保存会の人が毎月 18 日に観音講で供養をしています。



今は作見区の公民館に安置

16 石川廃寺跡

布制神社参道を登り始めてすぐ左側に畑になっている一帯（幅 40～50m）が古瓦の出土する廃寺跡です。出土した礎石と瓦から奈良、平安の時代の安養寺跡ではないかといわれています。区画内の道も 2 本が扇形造りの形で、今もハッキリと残されています。



石川廃寺跡

17 四十二人供養塔

天保 7（1836）年 8 月 17 日朝、聖川左岸の山崩れがあり、水車小屋 2 軒が流されました。小屋には米俵があり、近隣の人たちが流された米俵を上げに集まった所に、さらに今度は北側の山崩れが起きて下敷きとなり、42 人もの尊い命が亡くなりました。犠牲者を追悼し、供養塔が建てられました。



四十二人供養塔

18 石川城跡

聖川の流れる高台に沿って安山岩の断崖絶壁の高台があります。

嘉応元（1169）年に石川美濃守により築かれた山城で、今も西側の堀切や石垣がみられます。天文 22（1553）年の川中島合戦のころ、城主であった石川大和守は情勢により武田、上杉の双方に属したといわれています。



石川城跡（石垣の跡）

19 石川の「虚空蔵菩薩」

上石川の西山に明治初めまで虚空蔵菩薩堂があり、その後、石川布制神社境内にお堂が建てられ安置されています。

西山にお堂があったころ、武田信玄公が苦難に戦勝祈願の願をかけ詠歌を奉納しました。何度も查題にあい、平成 27（2015）年 12 月篠ノ井西小 5 年 5 組の生徒らが「帰って来た虚空蔵菩薩様」の人形劇を演じました。



石川の虚空蔵菩薩様（中央の厨子の中）

20 舟繫石

聖川からの取り入れ水の流れる山根堰の脇に舟繫石が立っています。聖山の岬であり、太古には湿地帯の沼であったということが舟を繫いだ石といわれています。

10m 西側から源泉が出ており、昭和 47（1972）年に長野市でボーリングし、今は石川老人憩いの家（カキ）が建ち、毎日多くの人たちに利用されています。



舟繫石

21 蚊石

明治初頭まで山の上にあった虚空蔵堂の参道脇に立派な庭石のような大きな石が立っています。石に耳を当てると「ブーン」と蚊の鳴く音がするといわれています。秋の終わりに蚊が集まって来るといわれていますが、秋風と聖川の瀬音が反響していると思われます。



蚊石

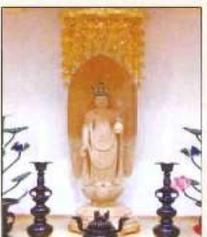
中組区



10 海野山専精寺（浄土真宗大谷派）

本尊は阿弥陀如来です。篠ノ井塩崎の康楽寺十一世浄林の次男専祐が埴科郡土口村（現千曲市土口）に専精寺を開山したのが始まりで、二世の代になり、現在地の中組に移住、専精寺と称したと伝えられます。真田氏の帰依を受け、江戸時代に発展します。このとき、3石5斗の寺領を与えられ、明治元（1868）年の記録では、旧石高は4石6斗4升5合とあり、東福寺村の中心的寺院でした。十八世映濃空山は高德の僧としてきこえ、鎌原桐山、佐久間象山、小林一茶らと親交があり、門徒や近所の人びとに俳句や漢学、弓術・砲術まで教えました。また、①で述べた大久保董齋（1800～1860）も専精寺に葬られています。旧東福寺小学校の始まりも専精寺に起因します。

東区



11 東区観音堂

「平安時代末期に東福寺の大御堂沖（南宮跡地）に東福寺と呼ぶ天台宗の大寺があった」と記す文献があり、東福寺の地名起源をもつ観音堂とされています。木曾義仲の横田河原の合戦の際に焼失し、このとき難を逃れたご本尊十一面観世音菩薩は奈良時代の行基の作と伝えられています。

幕末の嘉永2（1849）年再建されましたが、平成23（2011）年2月13日に不審火のため焼失しました。現存する観音堂は平成24年11月に、ご本尊の十一面観世音菩薩と併せて再建されました。

毎年元旦の初詣、5月8日の花祭り、8月10日の縁日、また毎月18日と20日は観音堂を開放することで区民や遠く東京や埼玉県の信者が参拝に訪れます。奉納されている絵馬は必見です。



12 地蔵尊のお数珠回し

地区のはずれの小さなお堂には、中にはお地蔵様が安置されています。誰がいつ、何のために作ったのかは不明です。毎年スポーツの日に、東区の女性たちが地蔵尊に向向き、年長者のたく鐘の音に合わせて、全員で長い数珠を回しながら「南無阿弥陀仏」を唱える「お数珠回し」という行事をしています。

このお数珠回しは戦後すぐのころ、猛威を振るった疫病を鎮めるために始められました。

中澤区



13 中澤伊勢社

天照大神を祭神とする中澤組の産土神です。古くは伊勢神社に産土品を調達する宮社で、中澤村の神明社となっていました。永禄4（1561）年の川中島合戦で焼失しましたが、武田信玄によって再建されました。

寛保2（1742）年の戊の満水で流されましたが、氏子によって再建されました。その後、千曲川堤防の嵩上げ工事で移転新築され、平成12（2000）年4月に遺宮新築落成式が行われました。内宮様式（鳥居の照りや反りがない）の神明鳥居、神明造りの建築様式（椽木が6本ある）の本殿などから伊勢神宮の荘園鎮守神社として造られたことがわかります。水難除けの水神さんも参拝いただきたいと思ひます。



14 何木塚（芭蕉句碑）

東福寺の中澤伊勢社境内の左側の草地に寂しげに立っている句碑があります。刻まれている句は「笈の小文」にあり、「何の木の花とは 志らずにおひ哉 はせを翁」で、元禄元（1688）年2月中旬とされています。真蹟詠草に「いせに詣でて、西行上人のなみだのあとをしたひ、増賀聖のむかしをおもひて」の前書があります。伊勢神宮に詣でた時の句であることから、東福寺中澤伊勢社に添えたものと考えられます。中澤の俳人深谷篤生（1810～1872年 信州の暮末期を代表する俳人）の門弟である小山泰治が、不老居二世梅嶺と号して師の志をつぎ、俳句を指導した証として松尾芭蕉の句碑を建立し、何木塚と呼んでいます。



15 六工社製糸業の元になった東福寺の養蚕

中澤村の玉井市郎治は、養蚕が将来有望であると考え、江戸時代の寛延4（1751）年から明和元（1764）年ころ、東北地方を視察して回り、桑の栽培や養蚕について学び、桑の実を持ち帰りました。その実から苗を育て、千曲川沿岸の荒地地に植栽しました。

玉井家一族の墓

さらに蚕の種を購入して育て、いつしか中澤村全体に養蚕が広まってきました。市郎治は、山梨から熟練の機織り技術者の夫婦を連れてきて、中澤村の婦女子に生糸を紡ぎ絹織物をつくる機織り技術を学ばせました。

2代目市郎治も父の後を継いで養蚕について研究を進め、桑の苗5000本、「蚕養育の事」『養蚕概要』という書物を刊行して、松代藩に献上しました。中澤村を中心に東福寺村に広まった養蚕は明治以後、松代の和田（旧姓横田）英らが富岡製糸場で製糸技術を学び、六工社設立へと結びついたのでした。

上庭区



16 上庭の十王堂——龍虎激戦の死者の弔い

永禄4（1561）年の川中島合戦は、上杉・武田軍最大の激戦となりました。東福寺近辺は戦場となり、両軍の兵士の死体が散乱し、まさに地獄絵図の様相を呈したと伝えられています。村人たちは散味方関係なく死体を埋葬し、菩提を申しました。それが十王堂の起源です。

堂内には本尊の阿弥陀如来、十王仏（閻魔王をはじめとする地獄で亡者の審判を行う裁判官）や村人から寄進された34体の仏像（釈父観音像）が安置されています。毎年9月、典厩寺の住職を招き、区民によって「お念仏・お数珠回し」のねんごろな用い行事を、今も欠かさず行っています。

東福寺地区全体



17 東福寺は寺子屋教育が盛んだった

東福寺教育の祖といわれる大久保董齋、養子の敬齋親子をはじめとして、東福寺では幕末から明治にかけて、寺子屋や私塾が23か所もあり、教育に熱心な地域でした。寺子屋教育で教鞭をとったのが、大久保親子（小森区）のほか、書道や漢学に秀でた土屋幸右衛門（小森区）、水練・砲術を教えた河野久喜（上組区）、上組区の十王堂の堂守秋山元二、専精寺十八世海野空山（中組区）、俳句や絵画に秀でた鹿島桂一郎（東区）、漢学を教えた小出春郷（上組区）、不老居篤生を号し、俳句や書画に精通した深谷谷作（中澤区）など多数にのぼりました。東福寺地域は松代藩の中核部に近い地域であったことから、松代三山といわれた鎌原桐山、山寺常山、佐久間象山などの松代藩の文化人と親交を深める機会に恵まれ、この地域に文化が根づいたといえるでしょう。

篠ノ井地区歴史探訪シリーズ

東福寺地区史跡・名所巡り

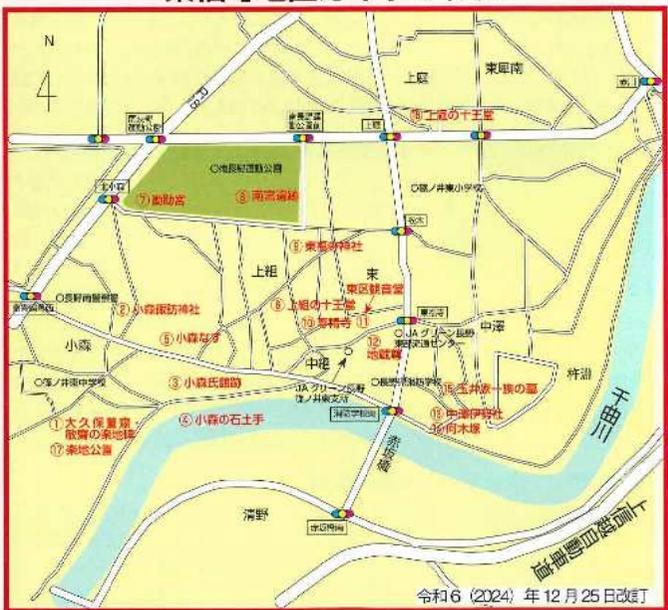
世界に誇るランドマークのオリンピック公園



篠ノ井東福寺地区は犀川・千曲川に挟まれた川中島平の南端にあります。二つの大河が長い年月をかけて育んだ肥沃な土地は、かつては養蚕が盛んに行われていましたが、昭和30年代後半から果樹栽培に移行（もも・ぶどう・なし）しました。田園地帯と果樹栽培が混在する地域に南長野運動公園が整備され、1998年2月「長野冬季オリンピック」の開閉式会場となったスタジアムで

あり「長野マラソン」のゴール地点にもなっています。公園内には野球場、サッカーラグビー場としてUスタジアムが平成27（2015）年に建設され、隣接して建つ体育館・プール棟、テニスコートでは近隣の中・高校生が練習に励んでいます。まさにスポーツのメッカになっています。オリンピック後、23年（令和3年現在）が経ちますが、公園周囲2kmコースには、散歩・ウォーキングを楽しむファンが毎日多数訪れ、人気スポットになっています。

東福寺地区ガイドマップ



注意：文化財などは、私有地にあるものもあります。見学の場合は関係者の了解を得てください。

篠ノ井歴史の会

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田1285 TEL.026-292-0038

協団体：長野商工会議所篠ノ井支部
海野山専精寺

西寺尾区



富部御厨岡神明神社

⑯富部御厨岡神明神社

富部御厨に設けられていた伊勢社。近郷11か村の総社として尊崇されてきました。孝元天皇の御代に伊勢内宮より天照大神を勧請して創建。兵火、雷火によりたびたび焼失しました。明暦元(1655)年藩主より用村の寄進を得て、本殿、祝詞殿再建。明治11(1878)年に社殿を再建し、現在に至っています。明治41(1908)年岡組にあった赤川神社を合祀して、社号を富部御厨岡神明神社と改称しました。往時は周囲に大塚があり、「信玄物見の松」がありましたが、枯死してしまいました。



富部御厨岡神明神社末社の数々

⑰富部御厨岡神明神社の末社

岡神明神社の境内にあり、秋葉社、石尊社、金刀比羅社、菅原社、稲荷社、荒神社、八剣社、八幡社、三島社、御井社、春日社の11社で、それぞれの祭神が鎮座しています。現在は5社の石祠が残っています。明治40(1907)年神社整理統合令により、赤川神社から金刀比羅社、菅原社、秋葉社3社を受け入れました。



三峰社

⑱三峰社

往時、伊勢社(岡神明神社)は近郷11か村の総社で境内は鬱蒼としており、狐など生息。狐は稲荷神の使いで神明地区はいつごろから不明ですが、埼玉県秩父市の三峰社を勧請。三峰社は諸難除、火防・盗賊除のご利益があり、主祭神は伊弉諾尊、伊弉冉尊の2神。当時は不定期で祭礼。昭和30(1975)年、常松庵の庫裏が火災にあい、翌年途絶えていた三峰講が復興。三峰神社へ講中での参拝も復活されました。



庚申塔と道祖神

⑲庚申塔と道祖神

富部御厨岡神明神社の境内にある宝塔型庚申塔は延宝3(1675)年の建立で、西寺尾地区の石塔として最も古いといわれ、二鷹二猿彫刻の石仏は珍しいといわれています。境内入口に高麗石工建立の「大日靈尊」石祠に六十六部供養塔があります。庚申塔・道祖神は以前集落の西入口にありましたが、道路拡張などで、岡神明社境内に安置されました。



かつての富部御厨岡神明神社参道

⑳大門(富部御厨岡神明神社参道)

伊勢社に多くみられる長い参道。文政7(1824)年松代藩の神社境内改めが行われ、西寺尾、許淵中沢、東福寺の4か村の村役人が立ち会って作成した覚書と絵図が残ります。それによると、大門は幅8間(約15m)、長さ71間3尺(約1293m)で大樹の並木が連なり壮観でしたが、太平洋戦争末期に伐採、農地となりました。現在は上庭線まで約350mの区間が残されていますが、水辺上庭区画整理事業後、南にも一部が残っています。



常松庵跡

㉑常松庵跡

里俗伝では宝治2(1248)年越前白山の僧、徳裕が伊勢社の神明寺を創建しました。永禄年間川中島合戦の兵火で伊勢社社殿と共に焼失後、廃絶となりました。元和年間再建して常松庵と称しましたが、再び焼失、宝暦3(1753)年6月長国寺十五世宋龍が再興しました。本堂、庫裡、六地藏がありましたが、昭和40年ごろ維持管理不能になり廃寺となりました。本堂は松代東条の実相院へ移され、庫裡は失火で焼失しました。現在は六地藏がやさしく見守っているだけです。



一本杉

㉒一本杉

永禄4(1561)年の川中島合戦で戦死した死者を葬った首塚といわれている塚の山。高さ70cmくらいに盛り上げた場所に五輪塔と社宮司が祀られています。日通り約19m、高さ約30mの老杉が聳えています。大正時代に松代青年会が調査し17か所の首塚がありましたが、現在は川中島古戦場の首塚と一本杉だけ残っています。「老杉に 兵むむる 塚のやま」



桜並木

㉓桜並木

首塚と灌漑の上揚が基約100mに枝垂桜の並木があります。以前は藎などの雑草地でしたが、集落の真ん中にあり、景観上見苦しく、管理も大変でした。平成15(2003)年、枝垂桜満開の想いを夢見て、用水関係者が枝垂桜を植栽しました。



馬頭観世音

㉔馬頭観世音

西寺尾地区に3基ある馬頭観世音のうちの1基です。馬頭の形をした観世音は珍しく、以前は岡地区に5基、神明の旧西山街道沿いに数基ありました。往時この地域は農耕馬はおらず、西山地域から馬耕作業で来ていたのと、荷馬の供養として建立したのではないかと伝えられています。



虚空蔵菩薩

㉕虚空蔵菩薩

宝暦11(1761)年地区住民の子どもに「流行」病が流行、多数の子どもが亡くなりました。尊い命の犠牲を哀れんだ篤志家が典義寺住職に相談、「虚空蔵菩薩像を祀って供養すれば、流行病がきつと治まるだろう」と言われ、菩薩像を造り祀りました。その後、住民の熱心な供養により流行病は治まったといえます。石祠の中に石造りの虚空蔵菩薩が安置されています。



宮入慶之助記念館

㉖宮入慶之助記念館

博士は風土病「日本住血吸虫症」の感染を媒介する1cmにも満たない巻貝を発見し、この貝を駆除することで病気で苦しむ農民を救いました。この貝は博士の名をとって「マイリガイ」と命名され、ノーベル賞候補にもなりました。平成11(1999)年記念館を開設し、博士が大切に使用されたのと同等の顕微鏡や資料約400点を展示しています。



赤川神社跡に建つ浅井列の歌碑

㉗赤川神社跡

養老2(718)年更級郡西寺尾村岡組の産土神として建御名方命を勧請。寛保2(1742)年未曾有の大洪水(浅の瀧水)の時も氏子の懸命な努力で御神体を守護。その後再建し、明治6(1873)年村社になります。明治40(1907)年神社整理統合令でやむを得ず、神明組の富部御厨伊勢社(岡神明神社)と合祀しました。大正15(1926)年日赤川神社組三浅井河野の歌碑「骨をつみ血は流しし もののふのおもかげうかぶ 赤川のみず」を建立。平成7(1995)年境内を整理し「赤川神社の由緒碑」を建立しました。

篠ノ井地区歴史探訪シリーズ

西寺尾地区史跡・名所巡り



旧川中島橋(下流より望む 平成7年10月撮影)



旧川中島橋下流に松代大橋が架橋された(千曲川左岸より皆神山を望む 令和2年1月撮影)

東西に分断された村を繋いだ旧川中島橋(篠ノ井村瀬)

寛保2(1742)年の「浅の瀧水」が遠因で千曲川瀬直しが行われ、西寺尾村は東西に分断され往來に不自由となりました。明治の初めまでは渡し舟でしたが、明治6(1873)年に舟橋、明治24(1891)～25年に木橋(寺尾橋)に変わりました。昭和に入り、交通の発達により昭和7(1932)年に丹波島橋が永久橋となり、引きつづいて昭和10(1935)年12月寺尾橋の永久橋が完成しました。橋の完成に先立って「橋名は全国的に通用するものに」という地元の要望をうけて募集し、新しい橋は古戦場にちなんで川中島橋と命名されました。長い間慣れ親しんだ橋でしたが、平成4(1992)年上信越自動車道長野インターの開設で長野市の玄関口となり、川中島橋下流200mに4車線の近代的な松代大橋が完成し、半世紀で川中島橋の使命を終えました。

注意:文化財などは、私有地にあるものもあります。見学の場合は関係者の了解を得てください。

篠ノ井歴史の会

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田1285 TEL.026-292-0038

協力団体:長野商工会議所篠ノ井支部

山布施地区 (山布施・遊谷・若林)



須立城跡

23 須立城跡 対岸の春日氏を見張る
現在は築城は布施直頼(のちに上尾城へ)とされていますが、地元では布施頼里(頼直)の築城といわれ、6代にわたって居住し、頼久の次男頼信が上尾の館へ、長男頼朝が布施高田の館へ移り廃城になったといわれています。



山布施の布制神社

24 布制神社 篠ノ井に3つある布制神社の1つ
古来、布施御厨内の神明宮として知られていました。文化7(1810)年に社号・布制神社神明宮、明治6(1873)年に郷社・布制神社となりました。
本殿は神明造で、拝殿の木鼻には象・獅子の彫刻があります。



延命寺跡

25 延命寺跡 布施氏の創立
布施郷領主布施氏の創立といわれ、当初地蔵庵と号し、寛政5(1793)年僧祖廓が開山しました。明治期に勸業学校として使用されましたが、戦後無住が続き、平成6(1994)年ごろ取り壊されました。結果石・六地藏などが残されています。



布施八龍大権現

26 布施八龍大権現 山布施を見守る水神
参道に「布施直頼終焉之地」碑が建てられています。現在の祭神は布施郷の開発に尽くした布施直頼ですが、地元では布施頼里といわれていました。明治40(1907)年に布制神社に移転した事になっていますが、地元民の信仰が厚く、現在地に残されています。



若林の薬師堂

27 若林の薬師堂 流行病から集落を救う
若林集落のほぼ中心にある小さな山の上にこの薬師堂があります。昔、感染症の腸チフスが流行したときに、この薬師さんに守られて無事だったという人もいます。隣に「金毘羅さん」とだるまさんと呼ばれる「養蚕神」も鎮座しています。



石積み堰堤

28 山布施尺内務省石積み堰堤 明治の治水工事
山布施沢とその支流に土石流を防ぐために、明治17~19(1884~1886)年に内務省直轄による石積み堰堤(180か所)がつけられました。堰堤の大きな石は犀川からそりで引き上げたといいます。
現在、15基ほど残っています。



砂防工事碑

29 山布施村砂防工事碑 堰堤工事の記念碑
若林の集落内に明治19(1886)年に建てられた堰堤工事の記念碑「山布施村砂防工事碑」があります。堰堤工事は延べ33,604人の作業員により、7,052円(当時)の工事費用を要して完成しました。

山村地区 (夜交・大久保・秋古・村山・粒良田・瀬成)



大久保縄文遺跡

30 大久保縄文遺跡 古い歴史を刻む
縄文時代中期の遺跡といわれ、中尾山(茶臼山)ふもとのやや傾斜した西向きの台地にあり、大久保集落に接しています。この遺跡からは打製石斧と石鏃が採集され、当時の道具置場ではないかと考えられています。



村山の布制神社

31 布制神社 布施郷を守る神社
文化11(814)年に現社号・布施神社となりました。弘化4(1847)年の普光寺地震による犀川の氾濫で社殿が流失しましたが、のちに再建されました。江戸期の御神体と思われる木彫りの竜神像があります。
境内に16社の祠があります。



三宝寺荒神堂

32 三宝寺荒神堂(浄土宗) 村山の荒神さん
川中島の蓮香寺が川中島の戦いの折に疎開したのが始まりで、戦が終わったのちも、当地に神仏が残され、現在に至っています。普光寺地震で流失し、本堂は嘉永4(1851)年、第十九世・満海上人のときに再建されました。明治7(1874)年から一部が協同学校として使用されました。



木造伝子安荒神坐像(重文)

33 木造伝子安荒神坐像 安産を祈る
荒神堂に安置される子安荒神坐像は大正4(1915)年に国宝に指定され、現在は重要文化財となっています。寄せ木造り、彩色の女神像で、足を組んで座っています。桃山時代から江戸時代にかけての像と思われます。



秋古薬師堂

34 秋古薬師堂 蓮香寺の疎開先
この薬師堂は令和の初めより400年以上前に建てられたといわれ、改修を繰り返しながら、秋古区民の健康を守ってくれる地元の象徴として、大切に保存されています。徳本上人の掛軸があり、長年にわたり念仏講が行われてきました。今もなお区民の心よりどころとなっています。



夜交の六地藏

35 夜交の六地藏 路傍の神さま
地藏が六道に迷う人びとを救済するということから、6つの分身を考えて六地藏として信仰されるようになりました。信里で路傍にあるのはここだけで、どんな苦しみでも救ってくれるという村民の思いで建てられ、現在でも集落を見守っています。



瀬成(左)・粒良田の養蚕神

36 瀬成・粒良田の養蚕神 おかいごさん
信里では江戸後期から養蚕が行われ、各集落に養蚕神が建立されました。瀬成の養蚕神は自然石に川字で「蠶神」と刻まれ、粒良田の養蚕神は石祠です。粒良田では今でも養蚕神の前でお祭りが行われています。信里の多くの集落に養蚕神があります。

篠ノ井地区歴史探訪シリーズ

信里地区史跡・名所巡り

篠ノ井の信里地区は、昭和の原風景を残していますが、神社仏閣も多くあり、路傍に行む石造物などの石造文化財の宝庫でもあります。往時の人びとの思いを感じながら自然散策を楽しむと、信里地区の歴史がよみがえってきます。なお、旧道・農道もありますので、場所によっては広いところに車を止め、徒歩でお願いします。わからないときは地元の方にお聞きください。



信里地区から北アルプスを眺望(中島敏雄氏撮影)

ガイドマップ



令和6(2024)年12月25日改訂

注意:文化財などは、私有地にあるものもあります。見学の場合は関係者の了解を得てください。

篠ノ井歴史の会

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田1285 TEL 026-292-0038

協力団体:長野商工会議所篠ノ井支部

篠ノ井祇園祭



大正時代の篠ノ井祇園祭の様
すでに踊り屋台が登場している



初代の大獅子が見える大正13(1924)
年7月17日の祇園祭

町制施行を記念して 祇園祭開催

明治21(1888)年、信越線開通に伴い、篠ノ井駅が現在地に開設されると、篠ノ井の中心地はそれまでの塩崎地区から、現在の布施高田地区へと移りました。



2代目の大獅子(昭和2年8月20日)

大正3(1914)年、布施村と栄村が合併して篠ノ井町が誕生しました。駅前には商店街が形成され、「篠ノ井停車場(駅のこ)」商工組合(現長野市商工会議所篠ノ井支所)が結成され、町としての活気に溢れていきました。こうした中、大正3年の町制施行を記念して、商店会や二葉組合の人たちの手により祇園祭が開催されることになりました。

伏見宮家下賜の神輿

祭りは布制神社境内に祀られる天王社から「素戔鳴尊」の御魂を神輿に載せ、駅前通りにつくられた仮宮に遷座する行事で、主役は神輿でした。特に2代目の神輿は、東京麹町の伏見宮家から下賜された由緒ある神輿で、平成22(2010)年に3代目が登場するまで、長く活躍しました。



天王社からご神体を下ろし、神輿に移す



伏見宮家より下賜された2代目の神輿

内堀・芝澤両区の大獅子

現在、篠ノ井祇園祭の花形である大獅子は、大正13年には初代の大獅子が登場していますが、初代の獅子がいつ造られたかは、はっきりしません。昭和2(1927)年、内堀区で2代目の大獅子がつくられ、以後、篠ノ井祇園祭といえば日本一の大きさを誇る大獅子がその主役となりました。昭和25(1950)年、内堀・芝澤両区は統一した祇園祭の開催を決めました。芝澤区が昭和31(1956)年、独自の大獅子をつくったことにより、篠ノ井



内堀・芝澤両区の大獅子と屋台が町内を巡行する



ご神体を載せた神輿を仮宮へ運ぶ



ご神体を仮宮に迎え祭の無事執行を祈願

祇園祭はいちだんと華やかな祭りになっていきました。

昭和50年後半からは、内堀・芝澤両区では祭りの盛り上げとして両区の大獅子を競演させることとなり、以後毎年行われるようになりました。ついには平成19(2007)年「長野市指定無形民俗文化財」に指定され、今日に至っています。

初めて大獅子、篠ノ井の町を出る——「北信濃獅子の祭典」

平成4(1992)年6月14日、長野冬季オリンピック招致決定1周年記念で、長野市は記念祝賀に「北信濃獅子の祭典」を企画、権堂・松代・稲荷山の獅子と長野市中央通りで競演しました。これが篠ノ井の大獅子が初めて町を出た記念すべき祭典となり、篠ノ井大獅子は一躍その名を広めました。



「北信濃獅子の祭典」が中央通りで開催

平成17(2005)年には、スペシャルオリンピックス(SO)冬季世界大会・長野が開催された際に、内堀・芝澤両区の大獅子が開会式で舞を披露、大きな賞賛を得ました。



善光寺御開帳に内堀・芝澤両区の大獅子奉納

善光寺御開帳に大獅子奉納

平成21(2009)年5月10日、並びに同27(2015)年5月17日、7年に一度の盛儀「善光寺御開帳」には、内堀・芝澤両区の大獅子舞を奉納しました。篠ノ井地区から2400人もの住民が参加し、長野市中央通り(表参道)を練り歩き、みごとな「大獅子巡行舞」を披露しました。



「獅子の祭典」で権堂・上山田の獅子と競演

「篠ノ井イヤー」で「獅子の祭典」開催

平成23(2011)年は、東日本大震災をはじめ未曾有の大災害が発生した年でした。世の中が暗い影に包まれる中、長野市の観光重点地区に篠ノ井が該当する地域PR「イヤー」の年にあたり、さまざまなイベントが行われました。ひととき異彩を放ったのが、内堀・芝澤両区の大獅子と権堂の勢獅子・上山田の勇獅子の競演でした。この「獅子の祭典」には、5000人もの見物客が訪れ、大変盛り上がった祭典となりました。

「篠ノ井祇園祭」百周年を迎える

篠ノ井祇園祭は、平成26(2014)年7月、1世紀の時を刻みました。その主力を担ってきた内堀・芝澤両区の人々は、この百年間、それぞれの連帯と絆を深め、何代にもわたって伝統の芸能を維持してきました。百周年を記念して、両区では大獅子の競演に力を入れ、訪れた見物客に感動と興奮を与えました。今後も篠ノ井の夏の風物詩祇園祭のシンボルとして、長く大獅子の舞は受け継がれていくことでしょう。



長野市指定無形民俗文化財

篠ノ井の大獅子

内堀区・芝澤区

真夏の夜、若者たちの掛け声が響き渡り、

篠ノ井祇園祭のフィナーレを飾る

内堀・芝澤両区による

日本一の大獅子による舞の競演

現在も息づく勇壮な伝統行事が

篠ノ井の町を熱くする！！



令和6(2024)12月25日改定

篠ノ井祇園祭開催日程

天王下ろし 本祭1週間前の日曜日
前日祭 子どもの祇園祭(7月最終の土曜日)
天王上げ(本祭) 毎年7月最終の日曜日

篠ノ井歴史の会

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 1285 TEL026-292-0038
協力団体：長野商工会議所篠ノ井支部/内堀区/芝澤区/篠ノ井大獅子保存会
高沢産業株式会社 / 株式会社くらら

支所発地域力向上支援金 事業評価(篠ノ井支所)

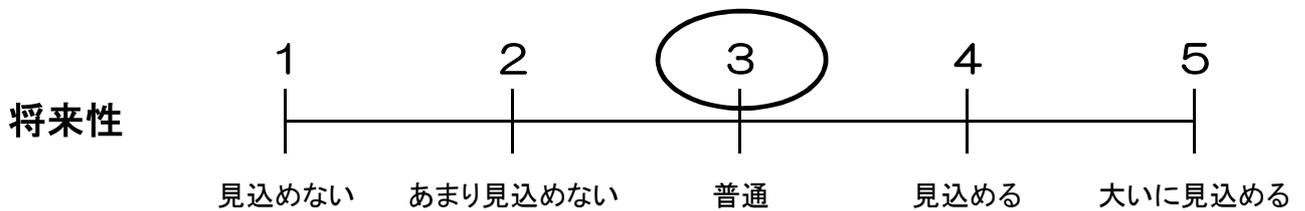
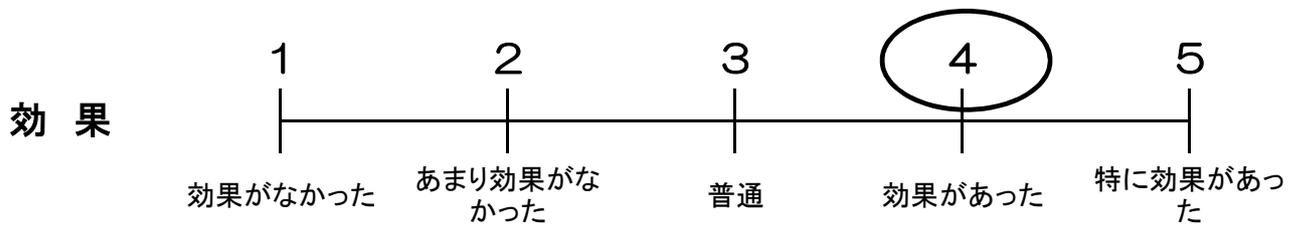
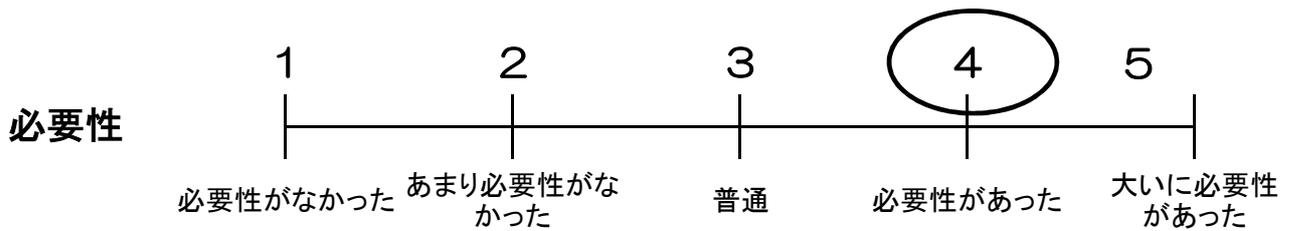
令和7年2月3日

事業名	篠ノ井史跡・名所巡りパンフレットの改訂事業
------------	-----------------------

団体名	篠ノ井歴史の会
------------	---------

評価項目 (選考基準の視点で評価)

事業区分	教育文化活動
-------------	--------



支所長の総合評価 (次年度以降の活動への助言等)

過去に作成された篠ノ井の史跡・名所を紹介するパンフレットの内容見直しによる改訂が行われ、最新情報が掲載された見やすいものとなった。

これまでと同様に、篠ノ井を訪れた人への情報提供として、また地域内の教育施設への無償提供など、パンフレットによる情報発信と現地案内など地域史を伝える学びの活動をすることで、篠ノ井地域への関心が高められることを期待する。

篠ノ井の持つ歴史、文化財など貴重な地域資源を未来の町づくりにつなげていくため、地域の魅力を発信し続けていただきたい。